1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 2 月 17 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4737 号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

しおさい 農業自然隊
トラクター導入

2014
2

最近亡くなった２人の仲間から

見えてきた課題

前号に続き、潮騒JTCが直面している課題について触れます。最近は本来の依存症よりも、長年の荒れた生活による持病の悪化などで仲間たちが死に行くケースが相次ぎ、施設が提供する回復プログラムの無力を痛感させられています。増加する一方の重複障害や認知症を伴う高齢依存症者には、私たちの持つノウハウでは対応できません。今回、不幸な２人の死亡ケースがありました。ともに根本にはアルコール依存症を抱えながら、一人は喫煙行為によって持病の肺気腫を悪化させ、もう一人は認知症の進行がひどく、それぞれ依存症治療の守備範囲を超えていました。本来ならそれぞれの症状に見合う専門病院で治療すべきですが、依存症という厄介な病気がそれを阻んでいました。既に帰るべき家族や故郷を失った彼らには潮騒JTC以外に命をつなぐ居場所はありませんでした。

もちろん世間では肺気腫を患っても喫煙習慣をやめることができず、死に至ることは珍しくありません。レベルの差はあれ本質的にはニコチン依存があるわけですから、構造は同じです。ただ、良くも悪しくも私たちは喫煙に対し世間よりも寛容な態度があります。依存症の回復がある種の依存の置き換えだとするなら、ヘビーな依存対象から比較的身体ダメージの少ない依存対象へと標的移行することで“救われる”現実は無視できません。ここには意志論や健康信仰が根強い世間の常識では推し量れない、依存症の難問が横たわっています。

もともと薬物やアルコールへの過度な依存は自傷行為そのもので、依存症者の人生は緩慢な自殺行為の歩みだとも言えます。よくダルクのミーティングでは頻繁に喫煙に立つ仲間の姿を目にしますが、仲間たちに言わせれば「タバコまで規制されたら依存症の回復なんて考えられない」ようです。この絶妙な“匙加減”で喫煙（ニコチン依存）を必要悪として黙認するダルクの風潮からすると、今回のケースは「覚悟の死」だとも考えられます。

しかし、そうだとしても私たちは幸運にも施設や自助（相互）援助グループにつながり、日常的に回復プログラムの福音に触れる機会を得ています。もとより回復プログラムが万能ではありませんが、この武器を生かすも殺すも自分次第です。もし２人がもう少し前向きに回復プログラムに取り組むことができたら、それぞれの自分の持病とも謙虚に向き合えたかもしれません。とても残念な思いです。今回の仲間２人の死は新しい終末期プログラムの必要性を私たちに促しています。私も年齢的に他人事ではありません。潮騒JTCを終の棲家として、できるだけ安らかに仲間たちの中で死を迎えたいと願います。

（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

トラクター導入で潮騒農業の機械化進む

ジョブトレに向けた環境づくりが大きく前進

▲ 潮騒農業に弾みをつけることが期待されるトラクターの前で

「彦星号」と稲作リーダーのヒコさん ▶

潮騒JTCはこのほど、潮騒農場での機械化を促進しようと念願だったトラクターを導入しました。潮騒ファイザープロジェクトの中核をなす農業への取り組みに弾みをつけるものと期待されます。合わせてユンボ（パワーショベル）も整備し、これらを運搬するトラック（いずれも中古車）も一挙にそろえました。

潮騒JTCはマンパワーが「売り」とはいえ、人力に頼る農業では作業効率が悪く、農業機械の早期導入が待たれていました。これにより鹿嶋市農業公社や支援農家の都合に合わせる必要がなくなり、主体的かつ計画的に農作業のスケジュールを組めるようになり、潮騒農業にとっては大きなステップアップとなります。

整備されたトラクターはヤンマー製の「新古車」です。最新型で26馬力、赤い色を基調として、冷暖房のキャビンやキャタピラーが付いているのが特徴です。これを運転するヒコさんの名前を冠して「彦星号」というネームをエンジン側面に書き込みました。トラクターは水田の耕起・整備など稲作の労働時間短縮や、潮騒農場（畑地）での整地作業やサツマイモや野菜類の収穫などに力を発揮し、生産性の向上に大きく貢献します。

今回はトラクターを運搬する専用のトラックも整備され、潮騒農場への輸送もスムーズにできるようになりました。遠方への運搬も可能なだけに、潮騒農業の地域拡大が期待できます。さらに荒地開墾や傷んだ水田の修復などに威力を発揮するユンボ（油圧ショベル）も思い切って導入。22馬力と小型ですが、５～６人分の仕事をこなし、必要な穴掘りや堆肥づくりなどにも力を発揮します。

栗原施設長は「潮騒農場の耕作面積が増えているだけに、人力作業ではもはや限界がある。機械のリースも考えたが、施設の自給自足体制をにらんだ潮騒アディクション・ビレッジ構想の実現を考えた時、ここは潮騒農業の機械化を促進すべきと決意した。経費負担はとても重いが、将来への先行投資として有効な判断だと思う。」と話しています。

福をget!

護国院の節分祭

【降魔山護国院】真言宗智山派の名刹。鹿島神宮の参道の途中にあり、創建は 708年。北関東三十六地蔵尊霊場第二十九番札所。創建当時は鹿島神宮の境内にある護摩所だった。本尊の不動明王は成田山新勝寺と兄弟不動。鹿島大宮司の意向で 1674年に現在地に遷座した。

大きなダンボール箱やコンテナで「福」をゲット
～今年も仲間たちが護国院豆まきに参加

２月３日は「節分の日」でした。季節の風物詩を大事にしている潮騒JTCでは、今年もデイケア施設に近い護国院（鹿嶋市宮中２丁目）の節分祭に参加しました。栗原センター長らが壇上から豆まきを行い、下では仲間たちが「福」を呼ぶ景品のお菓子やカップ麺などをたくさんゲットしていました。

鹿嶋市での節分といえば、鹿島神宮が毎回新聞などで大きく報道されます。人気力士や歌手、鹿島アントラーズの選手らが参加するビッグな豆まきイベントとして有名です。さすがに規模では及ばないものの、護国院の節分祭（追儺難式）の豆まきも最近、人気が急上昇中です。

鹿島神宮の影に隠れがちですが、こちらは関取ではなく元プロ野球選手やボクシングの元世界チャンピオンが参加し、豪華景品がそろうことでは引けを取りません。確実に景品をゲットできるとあってか、今年は昨年を上回る参加者で境内が埋まりました。

この日は午後６時から本堂で祈祷があり、その後に豆まきをする参加者が登壇。境内の特設舞台の上から神職や午（うま）年生まれの年男、年女らが「鬼は外、福は内」の掛け声に合わせて豆をまきました。これに続き、ゲストや寄進者の皆さんが壇上から豆代わりに景品をまきました。

今年のゲストは、常連の元プロボクサー世界王者の竹原慎二さんや畑山隆則さん。それに「花はおそかった」で知られる歌手で作曲家の美樹克彦さん、目玉は「実子騒動」で時の人となった元アイドルグループ光 GENJI の元メンバー、俳優の大沢樹生さんでした。

有名人らが登場すると、境内から大きな歓声が上がりました。栗原センター長も寄進者らと一緒に、かごや段ボール箱、ビニール袋などを持っている参加者たちに向けて、掛け声に合わせて即席ラーメンなどの景品をまきました。

会場下で待ち受けていた潮騒 JTC の入寮者らは飛んでくる景品の「福」をゲットしようと、段ボール箱やプラスチックのかごを持って我先にと競い合って拾いました。仲間たちは獲得した景品を手に満足そうな表情でした。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

感想　護国院の節分豆まきイベントに参加して

今年は昨年に比べ気温も暖かく、栗原センター長を含めゲストが出てくることを首を長くしながら待っていました。ここの豆の中には自転車・汁の素・米などが紛れ込んでおり、その引換券となるティシュも数多く舞っていました。自分は汁の素をもらってきました。

最近一つひとつのプログラムの中で、先人が残したことに思いを馳せることがあります。両親とともにやった豆まき、お袋が中心となって豆まきをしていました。どんなに忙しくても子どもと過ごす時間はありました。思えばそれは「永遠の愛」なのかもしれません。

今年自分は年男。人生の先輩に囲まれて豆まきをしました。両親の思いに気づかせてもらい、神様からのプレゼントを頂きました。子どもの自分に愛されていると伝えたいな。（トム）

今年の節分は随分暖かい日だなぁ―、そんなことを話しながら、ジャンパーなしで仲間と徒歩でデイケアから近くの護国院に向かいました。実のところ自分は初めての参加で、ワクワク・ドキドキしていました。最初から蒔く物をとるつもりはなかったのですが、護国院に着き人の多さでびっくり！。否が応でも気持ちが高まっていくのが分かりました。

そして、いざ豆まきが始まると、やはり身体が自然と動いていました。周りの人にもみくちゃにされながら奮闘しましたが、捕れたのがカップ麺 3 つでした。自分が所属する施設内の班の仲間は段ボール箱を用意していましたが、施設に帰ってから仲間と均等に分けました。元世界チャンピオンの畑山選手と竹原選手を生で見られて感動しました。（ツカ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

農業自然隊メンバーらが参加

～ 三重ダルク開設15周年フォーラム ～

大雪にめげず

薬物依存症者を支援する民間リハビリ施設「三重ダルク」が２月８日、開設15周年の記念フォーラムを三重県人権センターで開きました。記録的な大雪の悪天候にももかかわらず、潮騒JTCからは農業自然隊メンバーらがワゴン車に分乗し、頑張って参加しました。

新年一発目の三重ダルク15周年フォーラムは、いろんな意味で記憶に残る体験となりました。天気予報で「東日本に記録的な大雪？」と報じられていましたが、行きはほぼ問題なく会場に到着。予報の通り大雪で帰りは地獄のような交通事情となりました。降りしきる大雪で高速道路は通行止め、当然ながら高速を降りてみんな一般道へと向かうので、ここも激しい交通渋滞となり、なかなか前に進みません。気がつけば仲間たちと一緒に36時間（車内は30時間）過ごしました。

「こんなに仲間と過ごせる機会なんてないよな。ハイヤーパワーが与えてくれた長時間の車内缶詰ミーティングだと考えようぜ」などとポジティブになってみるのですが、いくら交代で運転しても睡魔と疲労でお手上げ状態でした。それでも何とか一般道で東京まで辿り着きました。何人かの仲間はテンションが高く上がりすぎて、ある意味スピリチュアルな目覚めを体験したようでしたが…。

挙句の果てに最後の最後でスリップして交通事故を起こし、決して忘れられない三重ダルクフォーラムでした。とにかく、やっとの思いで鹿嶋の地に辿り着きましたが、苦労して行ったた分、得たものはとても大きかったです。以下、私的な感想を記します―。

◇◇◇

まず午前のシンポジウムは、とても興味深かったです。12ステップの原理を理解できない仲間たち（その多くは重複障害、精神障害の病を持つ）に対して、何ができるのか、どうしていくべきか、の重い課題にシンポジストたちが真正面から向き合っていました。

なかでもコーディネーターのタケゾーさん（三重ダルク施設長）が「ミーティング以外の回復もあるのでは？」と話したことが印象に残りました。昨秋の潮騒フォーラムでゲスト講師を務めてくれたタケゾーさんは「みんなでキャンプをやったら、それがミーティング（分かち合い）になっていたんですよ」と力説したからです。

確かに12ステップの偉大さや意義、有効性は認めますが、潮騒でもこれにハマらない人たちが増えています。その人にあった個別支援策や回復の有り方が必要だと日々感じていたので、とても励みになりました。タケゾーさんは「大事なことは（当事者が）必要な時に必要なことを一緒にやり、それ以外はその人自身の考え方やペースでやっていけばいいと思う」という、緩やかな当事者主義の立場を打ち出し、これにも共感を持ちました。

依存症の世界では当たり前に使われる「“共依存”ではなく、“共同体”の発想でやってみてははどうか」とも話しました。難しい支援・被支援のあり方や治療共同体の原理はよく分かりません。でも、何よりも仲間のことを大切に想うリーダーがいて、現場の困難に立ち向かう姿勢には大いに刺激を受けました。

◇◇◇

また、大阪ダルク・フリーダム代表の倉田めばさんの話にも衝撃を受けました。依存症の仲間たちが地域でどう生きていけばいいかについて「就労支援とか自立支援とか大上段に構えずに、もっと自然体で考えていい。（大阪ダルク）では仲間たちがラーメン屋をやってる。理由は、ただ自分たちがやりたいから…」。これには頭をガーンと殴られた感じでした。

助成事業を受けると計画遂行に追われて余裕を失い、つい背伸びして目先の実績や成果を気にして原点を忘れがちです。やはり就労支援は当事者が「その仕事が好きだから」が原点だと教えられました。

もちろん、「そんな理想論で世の中が通るなら苦労はしない。仕事は本来つらいものだ。忍耐力が必要だ」という意見もあるでしょう。でも、「ただやりたいから」でうまく行っているなら問題ないと思います。めばさんが「何よりも仲間たちが生きがいを感じている」と話したことが“我が意を得たり”でした。というのも自分たちが今やっている農業の取り組みもまったく同じで、「当事者こそが主役なんだ！」「今日一日の精神でいいんだ！」と改めて勇気付けられました。

◇◇◇

午後の部は、本来の三重ダルク15周年フォーラムでした。最近、各地のダルクフォーラムでは以前のようなバンド演奏が少なくなり、エイサーや和太鼓など太鼓の演舞が主流となりつつあるようです。どうやらダルクの入寮者と同じくフォーラムも多様化傾向が見られますが、三重ダルクは詩の朗読や演劇パフォーマンスがありました。あまり見慣れないだけに驚きましたが、演者の個性豊かな感情表現が伺え良かったです。潮騒もダルク関連では珍しく、俳句づくりが盛んなのでフォーラムに組み入れたらいいな、とヒントをもらいました。

フォーラムでは注目すべき新しいプロジェクトも発表されました。その名も「ゴールド・トライアングル・プロジェクト」というものです。三重ダルク、沖縄のNPO法人団体（アディクトたちがコーヒー豆を作っている）、ネパールの依存症回復施設（ダルク的な感じ）の３団体が取り組む国際的なプロジェクトです。ネパールの施設は慢性的な資金難で運営が大変なようです。タケゾーさんと、その施設の人は友達らしく、三重ダルクが資金援助してきたけど、それでは何の問題解決にならないと考え、この３団体で需要と供給の関係を築き、国際交流もしながらバランスよくうまくやっていこうというプロジェクトです。これを従来の共依存関係ではなく、どうやら（新たな発想の治療）共同体にしようというビジョンのようです。この話を聞いて「すげーなぁ！」と驚きました。

ほかに卒業生（OB）の話もあり、三重ダルクも最初は潮騒の始まりと変わらなかったんだ、と分かりました。心の中で密かに「ならば俺たちも何かできるのでは…」という勇気が湧きました。既に潮騒JTCでは農業プロジェクトが、他のダルクに負けない規模で本格稼動しており、施設も短期間で急激に大きくなりました。支援者も少しずつ増えてきて「俺たちの未来は明るいぞ！」という希望の光が見えてきました。それだけに今、目の前に与えられたことを一つひとつ着実にこなしていくこと、そうすれば自分たちにも可能性は開けることを教えられたフォーラムでした。（ヒトシ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

今月のイベント参加報告

こんなイベントに参加しました、というご報告。

JAしおさい鹿嶋農産物直売所いちご祭りに参加して

鹿嶋といえば特産のピーマン、特別栽培米、手作り豆腐、生落花生、サツマイモ（紅あずま）や新鮮野菜などが人気です。これら地元の農産物が豊富にそろうのが鹿嶋市神向寺の「JAしおさい鹿嶋農産物直売所」。場所は県立カシマサッカースタジアムのすぐ側、国道51号線沿いのカシマスポーツセンター入口にあります。

ここには地元農業者が手塩に掛けた農産物が一堂に会します。何と言っても信頼のJAブランドですから、ここの売り場に並ぶことは大きなステータスです。潮騒JTCも支援農家の尽力により農場で収穫した野菜を出荷、販売できるようになったのです。とりあえずニンジンを持ち込み、それなりに手ごたえを得ています。

ここを利用させてもらって約1カ月、2月15、16の両日に開かれた「いちご祭り」に参加を求められたのです。店長さんの考え方がとても共感できたし、関係者の皆さんにも善意を感じられたのでやってみようと決意しました。いちご祭りは口コミとチラシの手渡しだけで試みられましたが、それなりにお客さんを集めることができ、まずまずの成果だったようです。

この祭りで、自分たちはポップコーンとさつまいもポタージュの無料配布、そして琉球太鼓（エイサー）の演舞をさせてもらいました。初日は天気が悪く、準備に手間取りましたが、2日目は晴天に恵まれ本領を発揮できました。エイサーは小さな子供から年配の方まで楽しんでくれたようで笑いも起き、嬉しかったです。

JAの皆さんからはお茶や昼食まで用意してもらい、感謝しています。何よりも「次もいないとダメだよ」と言われたことがありがたかったです。今回のいちご祭りでは、「こんな自分たちでも必要とされるのだ」と実感できたことが一番の収穫だったと思います。

（ヒトシ）

スノープログラムに参加して

とうとうこの日が来た。2泊3日のスノープログラムだ。5人の仲間と出発だ。朝4時半に起きた。待ち焦がれて2、3時間しか寝れなかった。福島県の猪苗代湖のスキー場でスノーボードや、スキーを楽しんでくる初めてのプログラム。初日は午前9時前にゲレンデに着いた。

僕たちは早速滑り始めた。僕はスノーボードをレンタルし、約10年ぶりにボードを履いた。昔みたいに滑れるか？ まあ、初級、中級コースならイケるでしょ、と。少し自信があった。リフトに乗って、ワクワクしながらスキー場のコンディションを見た、山全体の雪景色を楽しむのもスノーボードの楽しみの内だ。

ほとんど人がいない。リフトを降り、ほぼ貸切状態のなか、いよいよ滑り始めた。基本を思い出しながらボードを右へ左へとコントロールしてみる。やはり体が憶えている。少しぎこちなさはあるが、段々感覚を取り戻していった。一緒に来ている仲間も、しりもちをつき、なんだかんだ言いながらも結構楽しんでいる。潮騒での生活を忘れ、初日を存分にたのしんだ。

翌日の午前中はスノーボードを始めたが、ご飯を外に食べに出かけた。と、同時に雨が降ってきた。じゃあ観光にと、会津若松市まで足を延ばした、昼ご飯には馬刺しを食べた。鶴ヶ城にいって皆で写真を撮り、天ぷら饅頭なるものを食べ、お土産を買い、ホテルに帰り温泉に入った。

広い露天風呂があり、辺り一面の雪化粧。山から吹いてくる冷たい風と、温かいお湯のコラボレーションがとても気持ちいい。夜ご飯には豪華なバイキングを食べた。そして3日目も午前中スノーボードをし、帰路に就いた。

今回のスノープログラムは本当に思う存分楽しめた。今回のこの旅をプロデュースしてくれた仲間に感謝し幕を閉じたいと思う。ありがとう。（エン）

高齢者福祉施設で琉球太鼓

僕は去年8月から潮騒JTCの有志達と共にエイサー（琉球太鼓）を叩かせてもらっています。メンバーには凄くうまいと思う仲間もいましたが、僕は自分なりに自分の出来る範囲で頑張ってきました。1月には鹿嶋市内の高齢者福祉施設のデイサービスセンターで太鼓を叩かせてもらう機会がありました。

でも叩ける人数はせいぜい5人程度だったので、自分達に余った枠はあと1つ。その1枠を6人の仲間で競い、なんと自分が選ばれました。頑張って叩き、演舞をいろいろな方々に観てもらい、温かい拍手まで頂きました。涙を流してくれた方もいて、逆に自分が泣きそうになりました。

感動してもらうために行ったのに、逆に感動してしまった僕でした（笑）。それだけに頑張って練習した甲斐がありました。今後も練習に励み色々な所で叩けるよう努力します。今回、エイサーの機会を与えていただいたことに深く感謝します。（イチ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渇望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通していますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

私を背後で支えてくれる存在がある

栗原施設長、相変わらずお忙しい日々をお過ごしのことと思います。私が元気で過ごせるのも、施設長が(身元)引受人になってくれたおかげです。安否を気遣う心配りにも感謝しています。とても嬉しく、辛いことや虚しいことが後回しとなり、いつの間にか忘れている自分がいます。

とにかく心が満たされ、言動がブレず、行いが正しい方向に導かれていると実感しています。本当にアンビリーバボーです。不思議なことにミラクルがたくさん起きました。職業訓練に2度も選ばれたこと、3類、2類に進級できたこと、そして今月1年半無事故を頂いたこと…。これらは「すべて私を背後で支えてくれる存在がある」という気持ちがあるからこそ起きたのです。施設長、本当にありがとうございます。

先が見えてきたこの時期、気を付けたいのが気の緩みです。対策として出房前には必ず正座して、窓を開け、素足で待機しています。こうして寒さと格闘することで気の緩みを防ぎ、緊張感も生まれます。これを出所まで毎日続ける決意です。今年こそ回復に繋がる一員となり、社会復帰を目指します。引き続き宜しくご指導ください。

（秋田県　I・K）

毎日が不安で不安で心が折れそうです

お元気ですか？　自分は毎日、考え悩んでいることがあります。それは早く自分の身元引受人が栗原さんに正式に決まってほしい、ということです。こんな思いをするなら、最初から栗原さんに引受人を依頼しておけばよかったと後悔しています。毎日、不安で不安で心が折れそうです。自分と栗原さんとの唯一の繋がりは手紙のやり取りだけです。こんなお願いをするのは大変申し訳ないのですが、できたら返事をください。忙しい生活なのは十分に承知しています。でも、栗原さんの手紙が今の自分にとっては心の支えや励みになっているのは間違いありません。どうか宜しくお願い致します。

（神奈川県　K・M）

働きながら自力回復を選ぶことにしました

毎月の潮騒通信と時折頂くお手紙、大変ありがたく読まさせて頂いております。先日、本面接（委員の面接）を受け終わりました。栗原さんには入所当初より気を遣って頂き、一時は入寮と「柄受け」まで引き受けてくださったことを感謝しております。ですが、今度は自分の考えの下、働きながら自力の回復を選ぶことにしました。勝手な結果ばかりになりましたが、今後も栗原さんとは連絡を取り合いながら、長いお付き合いをお願いしたいと思います。それでは体に気をつけて、これからも仲間のために力添えを宜しくお願いします。

（東京都　O・T）

仕事をしていた頃は30万円以上の給料があったが.....

手紙ありがとうございました。私自身「もう2度と薬物には手を染めない。断ち切ろう」と過去に何度思ったことでしょう。仕事に打ち込めばなんとかなるだろうと、仕事に熱中したことがありました。でも、結果は同じことの繰り返しでした。現在の私には身元引受人もいない状態で、まして毎月の(潮騒JTCの)入寮費が15万円ということなので、どうしたものか思案しています。仕事をしていれば無理ではない支払いの金額ですが、今の状態では入寮は難しいです。社会で建築関係の仕事に従事していた頃は30万円以上の給料が毎月あったので良かったのですが、これから2年以上も施設生活をすることになると、とても悩んでしまいます。満期出所した時に今の気持ちがあれば相談に伺うつもりですので、どうか宜しくお願いします。私の希望としては身元引受人になって頂けるなら、何の問題もないのですが、どんなもんでしょうか？

（東京都　I・K）

もう少し自分の中で考え抜いてから決断したい

栗原施設長、潮騒JTCの皆様、日々のご活躍ご苦労様です。毎月、潮騒通信の差し入れありがとうございます。とても待ち遠しく、手元に届くとわくわくしながら楽しく、とても羨ましく拝見しております。また、今回は「柄受け」を申し出て頂き、ありがとうございました。出所後の環境調整ですが、現状では知人と保護会での平行で行っておりますが、自分の中では薬物依存のリハビリ施設で柄受けの段階からお願いした方がいいのか、検討をさせて頂いております。

もちろんクスリをやめたいのが自分の正直な気持ちだと確信していますが、まだまだ自覚が足りないのか、潮騒さんの所で出所後の最低1年間という長さの回復に向けたプログラムを受けなければならない、という約束のところで逡巡し、決心ができない自分がいます。

僕は今回、いろんなものを失いました。最愛の人にも、僕から去らざるを得ない辛い決断をさせることになり、自分の大きな過ちを痛感し、改めて薬物の怖さを思い知らされました。ですが、そんなどうしようもない自分でも、潮騒さんと同じように何とか自分を助けようと手を差し伸べてくれる仲間がいます。一日も早く仲間に恩返しをしたいし、何より僕の帰りを待ってくれる人が一人でもいるなら、そこに戻りたい自分もいます。

「誰かのためにやめられるほど依存症は簡単な病気ではありません」という栗原施設長の言葉はもっともだとは思います。仲間のために、とにかく人のためにとか、そんな気持ちでは薬物をやめていくのは難しいことは分かっているつもりです。何よりも環境が大きく左右することも理解しているつもりです。

でも、どうしても焦る自分がいます。もしかして、これは「底つき」を経験していない証なのかな？　とか、自分が薬物に対して無力であることを認めることがまだまだできていないのでは？　そんなこともたまには考えているのですが…。

自分の人生を長い目で考えれば、潮騒JTCさんやダルクさんのお力をお借りして、一からやり直すのが一番の近道であると思います。その方が「自分の力で…」などと考えるよりも安全安心で大いに意味のあることかな？　とも考えています。正直なところ、とても悩んでおります。柄受けのこと、また満期後でも出所後に潮騒さんをご利用させて頂くかどうかは、もう少し自分の中で考え抜いてから決断したいと考えております。

（北海道　T・S）

自分に何が一番大切かをよく考えて出所したい

栗原さん、お元気ですか？ お陰様で毎日、元気に過ごしております。私も出所まで60日を切りました。毎日出所のことばかり考えて正直、心が浮かれている状態ですが、作業も舎房での生活も真面目にやっておりますので、大丈夫です。

今まで私は自分一人の快楽や欲望に溺れ、身勝手な行為を繰り返し、その結果がこの高い塀の中と外とを出たり入ったりの生活となり、気がついた時には家族にも見放され、いつの間にか年齢も50歳を超えてしまいました。

当然ながら今まで、いろいろな人達に意見されてきましたが、でも人の意見を「聞き捨てる」生き方しかできませんでした。聞き捨てるとは、真心を無視することだと思います。親や妻、親族などすべてが私の身を思い、将来を考えての意見でした。今思い出しても、みんなためになることばかり、聞き捨てたら損になることばかりでした。なのに人の意見を無視するばかりか、踏みつけるように自分勝手な人生の悪路へと自分を追い込んでいったのは、まさしく自業自得かもしれません。

どんな人の意見にも耳を傾け、よく聞き、分からないことは質問して心にきちんと収めていく。そうして自分にも実行できることはできる限り実践していく―それが人間にとっての正しい道であり、私にとっては何よりも大切なことだと、最近になってやっと気づくことができました。これも栗原さんとの出会い、手紙によるコミュニケーションによって得られたものです。感謝の言葉しかありません。

人間の生涯にはいろんなハードルがあります。そのハードルは考えているだけでは乗り越えられません。勇気を出して飛び越し、失敗したら何度でもやり直す。そうした根気と勇気が人生に救いと喜びを与えてくれると思うのです。私は喜びのある人生を歩きたいのです。だから今度こそ更生への道を歩くためにも、何が自分にとって大切かを今一度よく考えて出所したいと考えています。

（北海道　Y・Y）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

選者 桐本石見

2月のお題　節分

わが俳句人生の歩み・No.4

施設長 栗原 豊

平成15年3月に前橋刑務所を出所した私は、飲酒によるトラブルを経ながらも一足早く依存症を克服していた姪の導きで茨城県神栖市にある鹿島ダルクにつながった。この7回目の出所が、結局は私の大事なターニングポイントとなる「底つき体験」となり、以後順調にリハビリ生活に励むことができた。

施設生活が落ち着くと、私は同市広報誌に掲載される「かみす俳壇」コーナーの入選句を毎月、楽しみにするようになった。そのうちに、この俳句会の佃田道雄会長（昨年死亡）がダルクの近くに住んでいることが分かり、私は過去の犯歴や依存症を病んでいることなどを打ち明け、私でも入会できるか打診した。すると佃田会長は「例え犯歴があっても、文芸を志すものは同じ仲間です」と広い心で入会を許可してくれた。私は、過去に川柳を学べるようになった時と同じ感動を味わった。（次号につづく）

特選句

草餅の匂ひを連れて母来る　アベ

草餅と云えば蓬餅のことで三月にもなると堤防や畦に生える蓬を摘み餅に混ぜて搗く、薄緑の色も香りも良い。この詠は里の母が息子を訪ねて来られたのか、今では土産も多種あるが、搗き立ての草餅は何よりの母の土産だ。私の子供の頃も蓬摘みを手伝ったが故郷を思う懐かしい句です。

特選句

豆まくやはしゃぐ子供に逃げる父　ちーな

節分の豆撒きは「鬼やらい」「追儺」などとも云い、中国から伝わり昔は大晦日の宮中の儀式であった。今では神社寺院でも有名人を迎えて行うが、家庭にも広まり父親が鬼、子供が豆を撒く微笑ましい景となる。この詠も平凡ながら幸せ家族を彷彿する句です。

受刑者の句

寒夕焼泣きたき今の目を瞑る（北海道　章三郎）

人間の特徴の一つに泣くと云うことがあり、子供大人により泣く意味が異なる場合が多いし嬉し泣きもあるが、この詠は何かを思い出して泣く場合である。寒夕焼けの束の間の茜も切なくて相応しい季語でしみじみとした句です。

寝返りて明るさ達ふ初明り（北海道　章三郎）

初明りは新年の朝の明りで、場所により異なるが海や山で迎えるのは神々しい。この詠はまだ寝ていて窓の初明りに寝返りをうち背を向けた景を思いますが、微妙な思いと、作者の陰影を宿して俳諧の句と云えます。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

今月の秀逸句

秀逸句

節分やいつも自分が鬼の役　コバ

家庭の豆撒きでは親が鬼、会社などでは下役が鬼になることが多い、節分になると何時も鬼の役をさせられる、少し不満を込めた詠ですがそれはそれで楽しい。映画などでも悪役、切られ役がありその悪役ぶりで劇も成り立つ。俳諧の面白い句です。

恵方巻きどちらを向きて食べよふか　イチ

恵方巻きは正規の俳句の季語ではありませんが、節分の夜にその年の恵方を向いて食べる長いままの巻寿司。平成十年にセブンイレブンが大阪で商品名として売出し全国に広まる。今年の恵方は東北東。発案者を思う面白い句です。

神宮の豆撒きいつもスター達　オノ

鬼やらいの儀式は古来からあるが今では神社寺院の宣伝的な行事になり有名人が豆撒きをする。私も一度特別に舞台へ上り豆撒きをしたことがありますが、有名人だけでなく一般の人にも役を譲っても良いかも。これも俳諧の句です。

節分やけふ温かき春の音　トリ

日本では春、夏、秋、冬と四度の節分があるのですが、寒い冬から春を迎える待ち遠しい思いや草木の芽吹きを待ち立春を一番に節分として祀る。今年の節分は温かく春の音を聞く様でもあった、しかし大雪の地方もある。待春の一句です。

春立つも雪の斑の鹿島郷　ユタカ

日本列島は南北に長いので立春と云っても菜の花の咲く所、積雪数メートルに及ぶ処もある。また太平洋側は二月三月に雪の降ることが多い。この鹿島も雪が降り斑に残る。実感の句です。

豆撒いて心の鬼を払ひけり　イルカ

今でも神楽や能には鬼や姫の面がありますが、そもそもその顔付きは想像ですが人の心の中を表しています。殺人鬼は恐ろしく姫様は優しく。豆を撒き先ずは自分の心に棲む鬼を追い払う。実感の句でいつも清らかな心に生きたいと願う。

遠き日に棲みし身の鬼豆を打つ　シュン

原句は少し変えましたがこれで過去の知らぬ間に自分に棲み着いた心の鬼へ豆を打ち追い払う句になります。子供の頃は素直な心ですが何時の間にか色々な鬼が棲み付き人生を狂わせる、一日でも早く退治したいものです。

佳作

節分や歳の数だけ拾う豆　ヒロ
節分や厄除け願い豆をまく　カツミ
節分や豪傑どもが鬼退治　ノリ
箱火鉢歳の数ほど豆を焼く　カート
節分やごまかしいたる歳ばれる　キコ
夜の雨歳の数ほど豆拾い　ジサマ
節分や新たな春に心向く　コウジ
節分や歳の数だけ豆を撒く　アツミ
鬼の顔闇に思ひつ豆を撒く　タツヤ
豆撒きの鬼になりけり痛きかな　コウタロウ
節分や哀しき歳と豆の数　ハンペン
節分や歳の数だけ豆を食ふ　チン
護国寺で豆の代わりの菓子を撒く　コジ
豆ま撒きの父と一緒に鬼退治　ベム
節分の豆を噛ねて歯が欠けぬ　ポチ
吾の歳の豆数えては食べきれず　シマ

施設長の句

再飲酒
訳のはちゃめちゃ
盲鰡（めくたぼら）
ユタカ

一度禁酒を誓い暫くは苦しいながらも頑張るが何かの切っ掛けで飲んでしまう。飲酒の理由を問うが訳の解らないことを云う。酒は薬にも毒にもなるやっかいな物。盲鰡は冬に目に脂肪が溜り見えずらくなること、同様に人間も心が曇ると狂う。俳諧の哀れの句です。

断薬の
機会あらたや
寒もどり
ユタカ

麻薬は魔薬で一度その快感を知ると断つのが厳しいが改めて断薬の機会を与えられて誓う。冬の寒も春になり温かくなるが又ぶり返すのを、冴え返る、寒もどりとも云うが、断薬の再度の誓いに相応しい時期かも。俳諧の句。

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アディクトのトムです」 No.1

私自身のインナーチャイルドと向き合って

こんにちは。アディクトのトムです。潮騒に来て3年半が過ぎました。今回このような形で「回復記」を書くチャンスをいただけたこと感謝します。私は1966年6月17日に東京都渋谷区で生まれました。比較的恵まれた家庭環境で育ったようです。ただ虚弱体質だったので、昔のアルバムを見ると病院のベットの上で撮ったものがほとんどでした。そこから小学校に上がるまでは、親父の仕事の関係で都内を転々とした記憶が残っています。

小学校は東京郊外の立川市で過ごしました。低学年の時から「早く大人になりたい、自由が欲しい」と思っていました。その一方で女の子とデートの約束をしたのに、自分の遊びが楽しくなるとそのことを忘れてしまうということもありました。なんだか今と余り変わりませんね。(^^;;)

その後、高学年になると1カ月に1回ほどのペースで背中の痛みと共に、食べた物をもどしてしまう症状が出始めました。いつも町医者にかかると自家中毒と言われ、強くなりなさいと注意されました。時がたつままに生活しましたが、たまたま国立病院でレントゲンを撮ったときに腎臓結石が見つかり、そのまま入院となりました。この時には親父に「なんで俺だけ!」と文句を言いました。この時に心の奥で大人は信用できない、自分の感じていることを信じようと、深く心に刻まれました。

この治療で、当時としては3カ月の入院で20針ほど左わき腹を縫う手術をしました。自分にとってはこの時が一つのターニングポイントだったな、と感じます。一つはモルヒネとの出合い、両親に対する過度の精神依存、明らかに後のアルコール・薬物依存の根っ子がここにあります。“薬物への囚われ”はあっという間で、打ってもらったあとの心地よさを求めて4時間おきに注射していました。この手術を1～2年おきに3回したので、その度にモルヒネを使い筋肉注射をしていました。腕の筋肉はボロボロで30歳近くになるまで筋肉注射をすると必ず痼（しこ）りになっていました。

そして、このまま中学・高校と進学しました。ただし体育は見学組でした。高校の時には一応彼女も出来ました。でもなんか性的な興味から「ヤリタイ」だけで失敗し、当時の自分はコンプレックスの塊（かたまり）でした。

2月のバースデイ

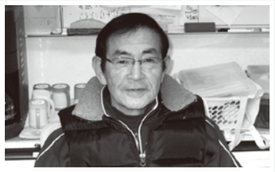
ユタカ

71歳に成ったが未だ無力を
認めきれぬ頑固者です。

マサオ

61歳に成ったが、まだまだ
しっかりしなきゃいけないな。

コバ



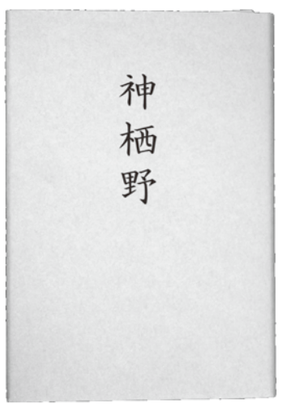
クリーン7年目に向かって…。

選者の桐本石見氏が第三句集「神栖野」を発刊

本誌「しおさい俳壇」選者で、栗原施設長の俳句の先生でもある俳人の桐本石見（きりもと・いわみ）氏＝茨城県神栖市在住＝がこのほど、「雑木山」「かずさ」に続く第三句集「神栖野」を上梓。終の棲家となった神栖の地を句集名としました＝写真。

長年、桐本氏が薫陶を受けた故・森澄雄老師の序文に始まり、同氏から新聞俳壇で選評された百余句の作品を掲載、老師供養の意味合いを込めました。また、同人句会「杉」「かたばみ」誌作品や森老師の追悼句などを編み込みました。

桐本氏は1942年、島根県江津市生まれ。75年から読売新聞俳壇に投句し、杉句会（森澄雄老師主宰）やかたばみ句会（森田公司師主宰）の同人となり、その後は神栖俳句会の会長を経て現在は同講師、指導者を務めています。



1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年2月17日発行　SSKU増刊通巻、第4737号

2月の行事予定

15・16日	JAしおさい鹿嶋農産物直売所 いちご祭り
16日	鹿嶋市平井公民館祭り エイサー演舞
22日	とかちダルク法人設立 1周年記念フォーラム
23日	家族会
24日	入寮者2月誕生会
27日	真壁のひな祭り＆ 益子焼見学ミニツアー（女性メンバー）
27日	潮騒入寮者映画鑑賞会 高松公民館　エイサー演舞

3月の行事予定

1日	岐阜ダルク女性ハウス 設立1周年記念フォーラム
7日	2014年第2回ファイザー就労支援実践講座
9・15日	秋元病院メッセージ
17日	新宿とまりぎアルコール問題相談業務
23日	潮騒3月定例家族会

編集後記

当然ながら刑務所に収監されると人間関係や社会環境はひどく制約されるため、受刑生活では孤独とどう向き合うかが共通の課題となる。いくら強靭な精神力を持っていても孤独感を紛らわすのは難しい。人恋しくなり、コミュニケーションに渇望するのは人間の自然感情だろう。昔は思想犯が監獄を学習の場として、自らの思想を鍛えたと伝え聞くが、頭の中で思考を深め精神を鍛えたとしても、それは人間の部分的な営みにすぎない。極めて例外的なケースといえる。大事なことは塀の中でも他人と触れ合い、優しさや思いやり、謙虚さ、誠実さ…など豊かな人間の感情を失わないこと。その意味で囚われの身となった我が依存症の仲間たちとの手紙によるコミュニケーションは、難しい人生哲学や生きる指針を説くのではない。人間は弱いものであり、仲間たちに支えられて生きること、依存症という厄介な病気を抱えても前向きな人生を手にできるという希望の言葉を届けることだ。世間に人知れず続けられる、この言葉のキャッチボールの持つ意味は意外にばかにできない重みを持っていると思う。（市）

献金を頂いた方（2月15日現在）

・小岩井商事　小岩井重光 様　・千葉菜の花家族会　富井健夫 様
・渡辺洋子 様　・内堀高良 様　・小橋ひとみ 様
・白井美代子 様　・山崎敏夫 様　・初根芳雄 様

献品を頂いた方（2月15日現在）

・宜野座 律子 様　・大類美幸 様
・高田 武義 様　・堀内　誠 様
・美空野保育園　山下佳子 様

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

**今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを
実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。**

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信　どっこい生きてます!

Contents

P2 最近亡くなった2人の仲間から見えてきた課題
P3 トラクター導入で潮騒農業の機械化進む
P4 福をget! 護国院の節分祭
P6 大雪にめげず農業自然隊メンバーらが参加 三重ダルク開設15周年フォーラム
P8 JAしおさい鹿嶋農産物直売所いちご祭りに参加して
P9 スノープログラムに参加して / 高齢者福祉施設で琉球太鼓
P10 受刑者からの手紙
P12 しおさい俳壇　2月
P14 どっこい私も生きてます!　～我が回復記～

■編集・発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39
E-メール　k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ　http://shiosaidarc.com/

1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 2 月 17 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4737 号

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　**定価 100 円**（会費に含む）

1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 2 月 17 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4737 号